審査意見への対応を記載した書類（６月）

（目次）看護学部　看護学科

１．３つのポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（１）ディプロマ・ポリシーに「地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる」と掲げ、教育課程では「共通教育科目」に英語に係る授業科目に加えて、多様な外国語の授業科目を設けているが、カリキュラム・ポリシーにおいては、外国語のうち英語に係る教育内容の記載しかなく、ディプロマ・ポリシー及び教育課程との整合性に疑義がある。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（２）（１）への対応を踏まえ、本学部のアドミッション・ポリシーが、本学部の設置の趣旨やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等に照らして、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針として適切な設定であることを明確に説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・8

２．審査意見１への対応を踏まえて、本学部の教育課程が、適正なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

３．海外研修科目について、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（１）養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関係性が不明確である。

（２）各授業科目の教育内容等が不明確なため、シラバスを示した上で具体的な教育内容等を明らかにすること。

（３）「教員１名が引率」する旨の記載があるが、当該教員は本授業科目を担当する教員を指すものか判然とせず、仮に引率する教員と授業担当教員が異なる場合、適切な成績評価等を行うことができる体制が整備されているか不明確である。

（４）引率する教員が学生のサポートを行う旨の記載があるが、大学も含めた具体的な支援体制が不明確である。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

４．本学の教育課程の履修に際して、学修時間の長時間化が懸念されるため、必要に応じて適切なサポートを行い、学生に過度な負担がかからないよう十分に配慮すること。
（改善事項）・・19

５．「疾病・病態・治療論Ａ～Ｅ」など、授業科目の名称がアルファベットによって区別されている授業科目が多数見受けられるが、その教育内容が分かりにくいことから、学生が授業科目の名称からその教育内容を理解できるよう、教育内容に照らして適切な名称とすることが望ましい。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

６．シラバスについて、以下の点を適切に改めること。
（１）オムニバス科目について、授業計画における各回の担当教員が明示されていないものが散見されることから、適切に改めること。（改善事項）・・・・・・・・・22
（２）評価方法について、「授業貢献度」の具体的な内容が不明確なため、教員及び学生が相互に共通認識を得られるよう、客観的かつ具体的な記載に改めること。
（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

７．多様な入学者選抜方法を採用しているが、各選抜方法においてアドミッション・ポリシーに掲げる能力等を適切に測ることができるのか不明確であることから、審査意見１への対応を踏まえ、アドミッション・ポリシーと各入学者選抜方法との整合性について明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

８．アドミッション・ポリシーに「高等学校等の教育課程を学修し」とあるが、高等学校卒業程度認定試験に合格した者がそれに該当するのかが判然としないため、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・27

審査意見以外の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

（是正事項）　看護学部　看護学科

１．３つのポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。 （１）ディプロマ・ポリシーに「地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる」と掲げ、教育課程では「共通教育科目」に英語に係る授業科目に加えて、多様な外国語の授業科目を設けているが、カリキュラム・ポリシーにおいては、外国語のうち英語に係る教育内容の記載しかなく、ディプロマ・ポリシー及び教育課程との整合性に疑義がある。

（対応）

審査意見１（１）への対応についての説明は、以下のとおりである。

ディプロマ・ポリシー（DP）の６項目とそれらに関わる教育科目について、資料１「カリキュラム・ポリシーに基づく科目編成とディプロマ・ポリシー及び養成する人材像との関係」として示す。資料１には、卒業要件上の必修科目、選択必修科目または専門教育科目の選択科目のみを記載している。

DP２に掲げる「地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる」での「地域で生活する多様な人々」は、通院する人、在宅での看護ケアを必要とする人など、日本人に限らず外国籍の人も含め、看護を必要とする人々を想定している。看護職者は、看護を必要とする対象者を「生活者」として捉え、その人らしく生活ができるように支援すること、そして、対象者の多様な文化的・社会的背景、価値観を理解し、尊重することが求められる。

資料１に示すように、DP２に関わる教育科目（薄緑色）は、共通教育科目の「異文化コミュニケーション」、「多文化共生社会」、専門教育科目では「看護英語コミュニケーション科目」、専門基礎科目の「家族社会学」、「健康科学概論」、「社会保障論」、「保健医療福祉行政論（１）」、「保健医療福祉行政論（２）」などに加え、主には、専門科目の「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群（「基礎看護学領域」、「地域・在宅看護学領域」、「グローバルヘルス看護学領域」）」の科目である「地域包括ケア論」、「家族看護論」、「地域療養体験実習」、「グローバルヘルス看護学概論」、「グローバルヘルス看護援助論」により、地域で生活する多様な人々への支援について学修する。

教育課程の共通教育科目Ⅱ金城コア科目⑤外国語教育科目は、卒業要件として、共通教育科目の卒業要件上の必修科目または選択必修科目を除いた全ての共通教育科目から１単位選択必修として設定しており、看護学部のカリキュラムとしては、「豊かな人間性を養うため」の一般教養としての外国語を学ぶための科目として設定している。

「看護英語コミュニケーション科目」は、設置の趣旨等を記載した書類の『Ⅳ-２．教育課程の構成と特色-２）専門教育科目』で述べているように、「共通教育科目」の「英語コミ

ュニケーションＡ（１）」、「英語コミュニケーションＡ（２）」で学んだ「聞く」、「話す」の能力をさらに高め、病院や病棟での患者や家族への看護実践場面を想定して看護にいかすための医療英語を修得する科目である。しかしながらカリキュラム・ポリシー（CP）では、「1. 教育内容の（４）」において、『「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護の対象となる多様な人々との交流や多様な価値観を理解し支援するため、英語でのコミュニケーションスキルを身につける科目を配置します。』としており、下線の部分において、上述の教育課程の記述と整合していなかった。

「看護英語コミュニケーション科目」は、グローバル社会に対応するための外国語として、特に国際的に公用語として最も使用される英語について、医療現場での看護対応を想定した英会話を身につける科目として配置しているため、審査意見１（１）の意見を踏まえて、CP「1. 教育内容の（４）」の記述を以下の通り修正し、DP、CP、教育課程の編成の整合性を整える。

『「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし 、看護場面における 英語でのコミュニケーションスキルを身につける ために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として 配置します。』

【資料１　カリキュラム・ポリシーに基づく科目編成とディプロマ・ポリシー及び養成する人材像との関係】

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（22 ページ）

新	旧
Ⅳ　教育課程の編成の考え方及び特色 **１．教育課程編成・実施の方針（以下、カリキュラム・ポリシーとする）** 看護学部看護学科は、建学の精神、スクールモットー、教育スローガン「強く、優しく。」を基盤とし、養成する人材像、並びにディプロマ・ポリシーを設定し、ディプロマ・ポリシーを達成できるように、カリキュラム・ポリシーは、以下のとおり設定した。 カリキュラム・ポリシー 看護学部看護学科では、ディプロマ・ポリ	**Ⅳ　教育課程の編成の考え方及び特色** **１．教育課程編成・実施の方針（以下、カリキュラム・ポリシーとする）** 看護学部看護学科は、建学の精神、スクールモットー、教育スローガン「強く、優しく。」を基盤とし、養成する人材像、並びにディプロマ・ポリシーを設定し、ディプロマ・ポリシーを達成できるように、カリキュラム・ポリシーは、以下のとおり設定した。 カリキュラム・ポリシー 看護学部看護学科では、ディプロマ・ポリ

シーに掲げる資質・能力を獲得できるように、「共通教育科目」と「専門教育科目」を、順序性を考慮し体系的に配置し、講義、演習、臨地実習を組み合わせたカリキュラムを編成します。 　カリキュラムの順序性・体系性をカリキュラム・マップ、カリキュラム･ツリーで示し、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用します。 教育内容、教育方法、評価については次のように定めます。 １．教育内容 （１）「共通教育科目」は、人間に対する畏敬の念と高い倫理性、豊かな人間性を養うため、福音主義キリスト教に基づく「金城アイデンティティ科目」、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養および多様な価値観を養う「金城展開科目」の３科目群を配置します。 （２）「専門教育科目」は、「導入科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「保健師課程科目」に区分します。 （３）「導入科目」は、大学での学びに円滑に移行し、大学生として必要な学修スキルを身につけるための科目と看護学を学ぶうえで豊かな人間性や高い倫理観を養うための科目を配置します。 （４）「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につけるために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として配置します。 （５）「専門基礎科目」は、科学的根拠に基	シーに掲げる資質・能力を獲得できるように、「共通教育科目」と「専門教育科目」を、順序性を考慮し体系的に配置し、講義、演習、臨地実習を組み合わせたカリキュラムを編成します。 　カリキュラムの順序性・体系性をカリキュラム・マップ、カリキュラム･ツリーで示し、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用します。 教育内容、教育方法、評価については次のように定めます。 １．教育内容 （１）「共通教育科目」は、人間に対する畏敬の念と高い倫理性、豊かな人間性を養うため、福音主義キリスト教に基づく「金城アイデンティティ科目」、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養および多様な価値観を養う「金城展開科目」の３科目群を配置します。 （２）「専門教育科目」は、「導入科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「保健師課程科目」に区分します。 （３）「導入科目」は、大学での学びに円滑に移行し、大学生として必要な学修スキルを身につけるための科目と看護学を学ぶうえで豊かな人間性や高い倫理観を養うための科目を配置します。 （４）「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護の対象となる多様な人々との交流や多様な価値観を理解し支援するため、英語でのコミュニケーションスキルを身につける科目を配置します。 （５）「専門基礎科目」は、科学的根拠に基

づいた看護実践の基礎となる知識を身に付けるため、「人間の身体のしくみと働き」、「健康障害と治療論」、「社会保障制度と社会環境」の３科目群を配置します。 （６）「専門科目」は、科学的根拠に基づく安全・安楽な看護実践に必要な専門知識・技術・態度を身に付けるため、「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」、「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」、「看護の統合と探究」の３科目群を配置します。 「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」の中に、「基礎看護学」、「地域・在宅看護学」、「グローバルヘルス看護学」の３領域を置き、看護学の基礎となる理論・専門知識と看護技術の修得、および国内外の保健医療福祉の現状を学修することで多様な社会資源、サービス、制度について理解し、多様な人々・地域を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。 「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」の中に、「成人看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「高齢者看護学」、「精神看護学」の５領域を置き、あらゆる成長発達段階と健康状態にある人々を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。 「看護の統合と探究」の中に、多職種との連携・協働について学修する科目、看護の質向上のための自己研鑽・探究心を養う科目を配置します。 （７）「保健師課程」は選択制とし、２年次以降に「保健師課程科目」として「公衆衛生看護学」の科目群を配置します。	づいた看護実践の基礎となる知識を身に付けるため、「人間の身体のしくみと働き」、「健康障害と治療論」、「社会保障制度と社会環境」の３科目群を配置します。 （６）「専門科目」は、科学的根拠に基づく安全・安楽な看護実践に必要な専門知識・技術・態度を身に付けるため、「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」、「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」、「看護の統合と探究」の３科目群を配置します。 「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」の中に、「基礎看護学」、「地域・在宅看護学」、「グローバルヘルス看護学」の３領域を置き、看護学の基礎となる理論・専門知識と看護技術の修得、および国内外の保健医療福祉の現状を学修することで多様な社会資源、サービス、制度について理解し、多様な人々・地域を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。 「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」の中に、「成人看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「高齢者看護学」、「精神看護学」の５領域を置き、あらゆる成長発達段階と健康状態にある人々を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。 「看護の統合と探究」の中に、多職種との連携・協働について学修する科目、看護の質向上のための自己研鑽・探究心を養う科目を配置します。 （７）「保健師課程」は選択制とし、２年次以降に「保健師課程科目」として「公衆衛生看護学」の科目群を配置します。

２．教育方法 （８）主に知識の修得、理解を目的とした科目は、講義により実施します。 （９）主に修得した知識を模擬的・総合的に体験し技術を身につけることを目的とした科目は、演習により実施します。 （10）主に知識や技術を実務に応用するための能力を身に付けることを目的とした科目は、臨地実習により実施します。 （11）アクティブ・ラーニングやICTシステムを導入し、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。 （12）履修者数の上限を設定し、必要に応じて少人数グループで授業を実施します。 ３．評価 （13）学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的基準をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。	２．教育方法 （８）主に知識の修得、理解を目的とした科目は、講義により実施します。 （９）主に修得した知識を模擬的・総合的に体験し技術を身につけることを目的とした科目は、演習により実施します。 （10）主に知識や技術を実務に応用するための能力を身に付けることを目的とした科目は、臨地実習により実施します。 （11）アクティブ・ラーニングやICTシステムを導入し、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。 （12）履修者数の上限を設定し、必要に応じて少人数グループで授業を実施します。 ３．評価 （13）学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的基準をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

（是正事項）　看護学部　看護学科

１．３つのポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。 （２）（１）への対応を踏まえ、本学部のアドミッション・ポリシーが、本学部の設置の趣旨やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等に照らして、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針として適切な設定であることを明確に説明すること。

（対応）

審査意見１（２）の説明に先立ち、他の審査意見対応による、カリキュラム・ポリシー（CP）およびアドミッション・ポリシー（AP）の修正について説明する。審査意見１（１）を踏まえ、CP「1. 教育内容の（４）」の記述を以下の通り修正した。（該当部分のみ抜粋）

新	旧
（４）「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につけるために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として配置します。	（４）「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護の対象となる多様な人々との交流や多様な価値観を理解し支援するため、英語でのコミュニケーションスキルを身につける科目を配置します。

また、審査意見８を踏まえ、高等学校卒業程度認定試験に合格した者を含めていることがわかるように、AP の一部を以下の通り修正する。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（48 ページ）

新	旧
Ⅷ　入学者選抜の概要 **１．入学者受入れの方針(以下、アドミッション・ポリシーとする)** 看護学部看護学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。 アドミッション・ポリシー 看護学部看護学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心	**Ⅸ　入学者選抜の概要** **１．入学者受入れの方針(以下、アドミッション・ポリシーとする)** 看護学部看護学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。 アドミッション・ポリシー 看護学部看護学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心

を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の３つの要素を備えていることを期待します。 　また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。 １．知識・技能 （１）高等学校等の教育課程を修了またはそれに相当する程度の学力を有するなど、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。 ２．思考力・判断力・表現力 （２）入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている。 ３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 （３）自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。	を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の３つの要素を備えていることを期待します。 　また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。 １．知識・技能 （１）高等学校等の教育課程を学修し、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。 ２．思考力・判断力・表現力 （２）入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている。 ３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 （３）自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。

次に、審査意見１（２）を踏まえ、AP が、入学者受け入れの基本的な方針として適切であることを、設置の趣旨やディプロマ・ポリシー（DP)、そして CP に基づく教育内容に照らして、説明する。

本学科では、入学志望者に対しては、AP 序文に、「本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す学生を求めます。」を掲げている。これは、本学科の養成する人材像「豊かな人間性を育むことにより、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることができる優しさを備え、看護学の専門知

識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有し、看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねることができる看護職者を養成する。」や DP へとつながる素養として、「求める学生像」を示しているものである。

この「求める学生像」を、①「本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、」、②「看護に関心を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す」に分けて、DP との関連を説明する。「求める学生像」と DP との関連については、資料２「アドミッション・ポリシー（求める学生像)、ディプロマ・ポリシー及び養成する人材像の関連性」に示す。

①は、DP１「人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。」、DP２「地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。」、DP６「看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。」を身につけるために必要な素養である。

②は、DP２「地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。」、DP３「健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。」、DP４「看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。」、DP５「多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。」、DP６「看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。」を身につけるために必要な素養である。

本学科は、養成する人材像に対応する DP を定め、その DP が達成できるように CP を設定し、それに基づく教育課程を編成している。教育課程の編成においては、DP の達成に向けた科目を順序性、関連性を考慮にいれながら、「共通教育科目」、「導入科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「保健師課程科目」についての講義、演習、実習を配置している。

本学科では、入学志望者に対しては CP に定める大学教育課程を受けるために必要な学力を備えていることが望まれ、次の学力の３つの要素を備えていることを期待している。

学力の３つの要素の「１．知識・技能」は、本学科の教育課程を学ぶうえで、全ての基礎となり、全ての DP を身につけるうえで必要な土台であることから、「(１) 高等学校等の教育課程またはそれに相当する程度の学力を有するなど、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。」を備えていることを期待している。

「２．思考力・判断力・表現力」は、主に DP３「健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。」、DP４「看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。」や DP５「多職種と連携し、保健・医療・福祉

チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。」にかかわる科目を学修するうえで必要な能力であることから、「（２）入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている。」を備えていることを期待している。

「３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」は、主には、DP２「地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。」、DP５「多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。」、DP６「看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。」を身につけるうえで必要な姿勢であることから、「（３）自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。」を備えていることを期待している。

以上、AP は、入学者の受け入れの基本的な方針として、養成する人材像、DP、CP に基づく教育内容に照らして定めている。

【資料１　カリキュラム・ポリシーに基づく科目編成とディプロマ・ポリシー及び養成する人材像との関係】
【資料２　アドミッション・ポリシー（求める学生像)、ディプロマ・ポリシー及び養成する人材像の関連性】

（是正事項）　看護学部　看護学科

２．審査意見１への対応を踏まえて、本学部の教育課程が、適正なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（対応）

審査意見２の説明に先立ち、審査意見１の対応により、カリキュラム・ポリシー（CP）「1．教育内容の（４）」の記述を以下の通り修正する。（該当部分のみ抜粋）

新	旧
（４）「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につけるために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として配置します。	（４）「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護の対象となる多様な人々との交流や多様な価値観を理解し支援するため、英語でのコミュニケーションスキルを身につける科目を配置します。

審査意見２への対応として、本学部の教育課程が、適正なディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー(CP)に基づき、修得すべき知識等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを説明する。

本学部では、養成する人材像を、「豊かな人間性を育むことにより、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることができる優しさを備え、看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有し、看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねることができる看護職者を養成する。」とし、DP では以下の６つの能力を有することを定めている。

１．人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。 ２．地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。 ３．健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。 ４．看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。

5．多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。
6．看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。

DP に掲げる資質・能力を獲得するための CP を設定した。CP では、「共通教育科目」と「専門教育科目」を、順序性を考慮し、体系的に配置し、講義、演習、臨地実習を組み合わせたカリキュラムを編成することを定めている。また、「共通教育科目」、「専門教育科目」に大区分し、「専門教育科目」は、「導入科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「保健師課程科目」に区分している。看護学教育の中心である「専門科目」は、「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」、「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」、「看護の統合と探究」の３科目群を配置することとしている。

CP に基づき教育課程を編成した。CP に基づく科目編成と DP 及び養成する人材像との関係を図示し、資料１（再掲）に示す。資料１では、教育科目と学修成果の高い DP との関係を各 DP の背景色と同色で示している。また、DP と CP の科目区分ごとの体系性を表す資料としてカリキュラム・ツリー（資料３）を示す。資料３では、CP に定めた科目区分ごとに色を分け、科目区分の体系性と DP との関連を示している。資料１と資料３は、いずれも必修科目、選択必修科目または専門教育科目の選択科目のみを記載しているが、科目と DP との関係（資料１）と科目区分ごと（資料３）と別の区分を色分けしているため、同じ科目であっても色が一致しないことをご留意いただきたい。１年次から４年次までの教育科目と DP の整合性は、カリキュラム・マップで示す（資料４）。資料４では、各科目の学修成果が高い DP には「◎」、学修成果がある DP には「○」を付した。

科目区分と DP との関係は資料１で示す通り、DP1 は主に「共通教育科目」が関係する。DP２は「共通教育科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」の「社会保障制度と社会環境」に含まれる科目、「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」に含まれる科目など複数の区分の科目が関係する。DP3 は主に「専門基礎科目」に含まれる科目が関係し、DP4 は専門科目の「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」、「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」と「保健師課程科目」の科目が関係する。DP５は「看護の統合と探究」と「保健師課程科目」が関係し、DP６は主に「看護の統合と探究」に関係する科目が含まれている。

以下に、教育課程の区分別に、科目構成、順序性について説明する。

１）「共通教育科目」：教養教育科目に相当する全学部共通科目で、「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の３科目群からなる。建学の精神や専門科目の基盤となる学修であるため１年次～２年次に履修する。また、「共通教育科目」と並行して、「導入科目」の「基礎ゼミナール」、「生命倫理」を学修する。

２）「導入科目」：大学での学び、特に看護学をより深く・広く、関心をもって学ぶことへの導入として「基礎ゼミナール」を、豊かな人間性や高い倫理観の基礎的能力を養うために「生命倫理」を１年次前期に学修する。

３）「看護英語コミュニケーション科目」：「共通教育科目」の英語コミュニケーション科目で学んだ「聞く」、「話す」の能力を高め、病院や病棟での患者や家族への看護実践場面を想定して、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につける科目として、２年次～４年次まで学修する。

４）「専門基礎科目」：「人間の身体のしくみと働き」、「健康障害と治療論」、「社会保障制度と社会環境」の３区分からなり、科学的根拠に基づいた看護実践の基礎となる知識を身につける科目として、１年次～２年次に配置した。

「人間の身体のしくみと働き」では「解剖生理学」の３科目と「生化学」を、「健康障害と治療論」では「病態生理学」、「疾病・病態・治療論」の５科目、「臨床心理学」、「カウンセリング」を学修する。看護実践の基礎となる医学的知識を修得し、看護学の専門知識と技術を学んでいく基盤となる科目であり、１年次の「解剖生理学」、２年次の「疾病・病態・治療論」等の科目へと関連づけられるように順序性をもって配置した。

「社会保障制度と社会環境」には、健康行動、健康問題と予防、国民衛生の動向、社会保障などに関連する科目として、１年次に「健康科学概論」、「保健統計学」、「家族社会学」、２年次に「公衆衛生看護学概論」、「社会保障論」、３年次に「疫学」、「保健医療福祉行政論（１）」、４年次に「保健医療福祉行政論（２）」を配置した。保健師課程（選択制）の選抜時期を考慮し、「健康科学概論」を１年次後期、「公衆衛生看護学概論」を２年次前期に配置した。

５）専門科目「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」：「基礎看護学」、「地域・在宅看護学」、「グローバルヘルス看護学」の３領域があり、「基礎看護学領域」を１年前期～２年後期に、「地域・在宅看護学領域」を１年次後期～３年次後期に、「グローバルヘルス看護学領域」を２年次前期～３年次前期に科目を配置した。

「基礎看護学領域」の「家族看護論」及び、「地域・在宅看護学領域」の「地域包括ケア論」、「地域療養体験実習」は１年次に履修し、地域における多様な場での看護実践の基礎を修得する。「グローバルヘルス看護学領域」の「グローバルヘルス看護学概論」及び「グローバルヘルス看護援助論」の履修を通して、グローバル化する社会の中で必要な態度・能力・知識・技術を修得する。

「基礎看護学領域」の「看護学概論」、「基礎看護学実習（１）」、「看護コミュニケーション論」、「基礎看護生活援助技術演習」、「基礎看護診療援助技術演習」、「ヘルスアセスメント」、「医療リスクマネジメント論」、「基礎看護学実習（２）」の科目は、１年次から２年次前期まで、解剖生理学など他の科目の学修との関連や順序性を踏まえて配置した。

また、「地域・在宅看護学領域」の「地域・在宅看護学概論」、「地域・在宅看護援助論（１）」、「地域・在宅看護援助論（２）」、「地域・在宅看護学実習」は、「基礎看護生活援助技術演習」

や「基礎看護診療援助技術演習」での学びなどを踏まえて、1年次後期から3年次後期に配置した。

6）専門科目「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」：「成人看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「高齢者看護学」、「精神看護学」の5領域を置き、あらゆる成長発達段階と健康状態にある人々を対象に看護実践の展開に必要な科目を配置し、講義、演習、実習の順序性・関連性をもった教育ができるように配置した。概論科目(講義)は2年次前期、援助論科目(演習)は2年次後期～3年次前期、実習は3年次後期に配置した。「疾病・病態・治療論」の5科目は、各看護学領域の援助論の基礎的知識であることから、各領域科目との関連を考慮しつつ配置した。

7）専門科目「看護の統合と探究」：多職種との連携、チーム医療での役割などに関係する科目として、3年次前期に「災害看護論」、4年次前期に「チーム医療論」、「看護管理学」を、国際的な最先端情報や健康問題と対策、看護の質向上のための施策を学修する科目（選択）として「原著講読」、「感染症と社会」、「看護政策」を配置した。4年次前期の「統合実習」は、それまでの学びを統合し、看護管理の基本、病棟運営などチーム医療における看護師の役割などを現場で学修する。また、3年次前期の「看護研究方法論と看護実践への活用」で看護研究を行うための基本を学修し、4年次の「卒業研究」を通して、看護学について探究していく姿勢を形成する。

8）「保健師課程」（選択制）：「公衆衛生看護学」の科目群を配置した。保健師課程を選択する前の学修として、「公衆衛生看護学概論」を2年次前期に配置し、2年次後期から「公衆衛生看護学」の講義科目と演習科目をバランス良く配置した。これらを踏まえ、保健師の公衆衛生看護活動を理解するための「公衆衛生看護学実習（1）」、「公衆衛生看護学実習（2）」を学修する。4年次後期には公衆衛生看護学実習の事後に行う「公衆衛生看護活動展開論C」（公衆衛生看護活動の総括）、「公衆衛生看護管理論B」（地域ケアシステム）を配置することで、実習での学びを一層定着させる。保健師課程については、看護学課程の学修、実習を考慮しつつ全体を配置した。

本学部の教育課程は、CP1．教育内容（4）を修正した後も資料3および資料4に示す通り、1年次から4年次にわたり、基礎から応用へと体系的な学びが配置されている。DP及びCPに基づき、修得すべき知識等に係る教育が網羅され、体系性が担保された編成である。

【資料1　カリキュラム・ポリシーに基づく科目編成とディプロマ・ポリシー及び養成する人材像との関係　(再掲)】
【資料3　カリキュラム・ツリー】
【資料4　カリキュラム・マップ】

（是正事項）　看護学部　看護学科

３．海外研修科目について、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（１）養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関係性が不明確である。

（２）各授業科目の教育内容等が不明確なため、シラバスを示した上で具体的な教育内容等を明らかにすること。

（３）「教員１名が引率」する旨の記載があるが、当該教員は本授業科目を担当する教員を指すものか判然とせず、仮に引率する教員と授業担当教員が異なる場合、適切な成績評価等を行うことができる体制が整備されているか不明確である。

（４）引率する教員が学生のサポートを行う旨の記載があるが、大学も含めた具体的な支援体制が不明確である。

（対応）

当初、海外研修科目については、卒業要件上必修や選択必修科目ではなく、共通教育科目の選択科目として位置付けていた。海外での語学研修プログラムを大学以外の教育施設等における学修として、単位認定する科目であり、複数ある共通教育科目の一つとして開設を予定していたため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを達成するために必須の科目ではないので、看護学部看護学科の教育課程から削除する。

（新旧対照表）教育課程の概要

新				旧			
科目区分			授業科目の名称	科目区分			授業科目の名称
共通教育科目	Ⅲ金城展開科目	⑪海外研修科目	（削除）	共通教育科目	Ⅲ金城展開科目	⑪海外研修科目	海外研修Ａ
			（削除）				海外研修Ｂ
			（削除）				海外研修Ｃ
			（削除）				海外研修Ｄ
			（削除）				海外研修Ｅ
			海外留学準備講座				海外留学準備講座

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類

新	旧
削除	**Ⅶ　海外研修を実施する場合の具体的計画** **１．研修先の確保の状況** 　共通教育科目の１～２年次選択科目として、海外研修Ａ（北米の地域）、海外研修Ｂ（イギリス）、海外研修Ｃ（オーストラリア）、海外研修Ｄ（中国）、海外研修Ｅ（Ａ～Ｄに含まれないその他の地域）を開講している。 これらの科目は、大学以外の教育施設等における学修として、履修登録後、研修先の評価や研修後のレポート等を勘案して単位認定を行い、本学で修得した単位とみなす科目として位置付けている。 研修は夏期休暇期間または春期休暇期間の２～３週間で実施する。出発前には４～８回のオリエンテーションと２～３回の特別講習及び危機管理オリエンテーションを実施している。研修先は本学との協定校・提携校であり、受け入れ先及び受け入れ人数は資料 42 の通りである。 【資料 42　海外語学研修 研修先一覧】 **２．研修先との連携体制** 　国際交流センターの職員が研修先と研修内容や評価方法等について、事前打ち合わせ　を綿密に行っている。 　教員１名が引率し、学生のサポートや研修先との連絡・調整を行う。 　研修後は、国際交流センターの職員が研修先に対してアンケート結果等をふまえてフィードバックを行っている。 **３．成績評価体制及び単位認定方法** 　成績評価は、研修先の評価や研修後のレ

	ポート等を勘案して授業担当者が判断し、単位認定を行い、本学で修得した単位としてみなす。単位認定が認められる場合は、全学の単位認定基準に則り、「他」として評価され、2単位付与する。認定されない場合は「失」として評価される。なお、本科目で修得する単位数は CAP 制の上限に含まれない。 **４．危機管理体制** 危機管理オリエンテーションへの参加と、本学指定の東京海上日動火災保険（株）学研災付帯海外留学保険への加入を義務付けている。また、渡航前に麻しん抗体検査（血液検査）を受けたことがあるかを確認し、必要に応じてワクチンの接種を推奨している。

（改善事項）　看護学部　看護学科

４．本学の教育課程の履修に際して、学修時間の長時間化が懸念されるため、必要に応じて適切なサポートを行い、学生に過度な負担がかからないよう十分に配慮すること。

（対応）

審査意見 4 を踏まえ、特に保健師課程を選択した学生に学修時間の長時間化が懸念されることから、以下のような対応をとることで、過度な負担がかからないように配慮する。

教育課程全体を通して、学修プロセスが学生にとって過度な負担にならないよう、時間割は４限を超えないように構成することで、学生が自由に学習できる時間を確保すると共に、科目間の空き時間が１限以内となるようにしている。参考資料として「金城学院大学看護学部　時間割表」（資料５）を示す。１年次前期の時間割は、選択科目の割合が多く、前期前半および前期後半のみの科目（授業回数８回の科目）もあり、学修時間の長時間化を回避できるように設定している。１年次後期以後は水曜日の講義は２限までであり、１週間の中間地点でインターバルがとれるようにしている。また、保健師課程選択学生を中心に履修科目が多い学生については、教務委員会、学生生活委員会、看護実践教育委員会、FD 委員会等の委員会の会議を通して、学生の履修状況における負担の把握と共に、教育改善に努めることとしている。時間割や課題の提出期限の調整を図る等、必要な対応について協議し、学生の履修をサポートする。必要時には教務委員会及び、学生生活委員会等で協議し、個別対応する体制をとり、学生に負担がかかり過ぎないよう十分に配慮する。なお、各委員会の役割については下表に示した。

また、本学では各学生にアドバイザー教員がつき、学生の大学生活を把握しつつ支援する体制をとっている。アドバイザーが学生の修学面、学生生活面、心身の健康面等を把握するに際して、履修状況における過度な負担の有無に関すること、保健師課程選択のこと、国家試験受験対策に関すること、就職活動や進学に関することについても把握し、必要な支援を提供する。

【資料５　金城学院大学看護学部 時間割表】

表　金城学院大学看護学部看護学科委員会

委 員 会 名	役　割
教務委員会	教育課程の編成・実施に関すること、学生の再入学、単位の認定に関すること、学生の修学指導に関すること、学生の休学、復学、留学、退学及び除籍に関すること、その他教授会から付託されたことなど、教務に関する全般について審議する。
学生生活委員会	学生のオリエンテーションに関すること、学生生活支援の制度・環境に関すること、アドバイザー制度に関すること、学習環境に関す

	ること、就職活動支援に関する事項、学生の厚生補導に関すること、学生の賞罰に関すること等学生生活全般について審議する。
看護実践教育委員会	看護実践教育支援室の管理・運営方法、実習計画・実習調整、看護学部の教員が関わる共通科目の企画・実施に関することを検討する。
FD 委員会	大学全体の FD 委員会と連携し、教育・研究の改善のための提案、FD に関する研究会・ワークショップの開催、カリキュラムの検討と改善、授業の内容、方法及びシラバスの検討と改善、教員の研究環境の検討及び改善並びに教員の研究成果の検討及び改善のための提案等について検討する。

（改善事項）　看護学部　看護学科

５．「疾病・病態・治療論Ａ～Ｅ」など、授業科目の名称がアルファベットによって区別されている授業科目が多数見受けられるが、その教育内容が分かりにくいことから、学生が授業科目の名称からその教育内容を理解できるよう、教育内容に照らして適切な名称とすることが望ましい。

（対応）

審査意見５を踏まえ、専門教育科目の「解剖生理学Ａ～Ｃ」、「疾病・病態・治療論Ａ～Ｅ」については、学生が教育内容を理解できるような授業科目名称に変更する。共通教育科目については、本学既設学部においても、学生に配布する履修要覧に授業科目の副題を記載することで、学生が教育内容を理解できるようにしている。例えば、「文学Ａ～Ｃ」では、「文学Ａ（日本文学論）」、「文学Ｂ（西洋文学論）」、「文学Ｃ（文学とキリスト教）」と表記している。スポーツ・アンド・エクササイズについてもＡ～Ｈまで８科目設定しているが、「スポーツ・アンド・エクササイズＡ（テニスとゴルフ）」、「スポーツ・アンド・エクササイズＢ（バドミントンとライトスポーツ）」、「スポーツ・アンド・エクササイズＣ（卓球とフィットネスＡ（ヨガ・太極拳など））」等と表記し学生が副題を見て教育内容や競技種目等が分かるようにしている。看護学部看護学科においても既設学部と同様に履修要覧に副題を記載し、履修に際して学生が教育内容を理解出来るようにする。

（新旧対照表）教育課程の概要、授業科目の概要、シラバス、学則、
設置の趣旨添付資料 26、教員名簿、教員個人調書等

新	旧
解剖生理学Ａ（人体の構造）	解剖生理学Ａ
解剖生理学Ｂ（人体の機能）	解剖生理学Ｂ
解剖生理学Ｃ（生殖・発達・加齢）	解剖生理学Ｃ
疾病・病態・治療論Ａ（循環器・呼吸器・消化器）	疾病・病態・治療論Ａ
疾病・病態・治療論Ｂ（内分泌・腎・生殖器）	疾病・病態・治療論Ｂ
疾病・病態・治療論Ｃ（血液・免疫・感染）	疾病・病態・治療論Ｃ
疾病・病態・治療論Ｄ（精神・小児）	疾病・病態・治療論Ｄ
疾病・病態・治療論Ｅ（運動器・神経・検査）	疾病・病態・治療論Ｅ

（改善事項）　看護学部　看護学科

６．シラバスについて、以下の点を適切に改めること。 （１）オムニバス科目について、授業計画における各回の担当教員が明示されていないものが散見されることから、適切に改めること。

（対応）

審査意見６（１）を踏まえ、オムニバス科目のシラバスについて、網羅的に確認を行い、授業科目の担当者が明示されていない以下の科目について、担当者を記載した。

（新旧対照表）シラバス「成人看護援助論」

新	旧
３、５、７、９~15 回目 （山手・畠山・坪井・青木・山本・森）	３、５、７、９~15 回目 （成人看護学領域教員）

（改善事項）　看護学部　看護学科

６．シラバスについて、以下の点を適切に改めること。 （２）評価方法について、「授業貢献度」の具体的な内容が不明確なため、教員及び学生が相互に共通認識を得られるよう、客観的かつ具体的な記載に改めること。

（対応）

審査意見６（２）を踏まえ、評価方法の「授業貢献度」を、教員及び学生が相互に共通する認識が得られるように、講義科目については「授業への参加度（発問に対する応答、発言内容）」、演習科目については「演習への参加度（実技・グループワークへの取組、討議内容）」へと変更する。

（新旧対照表）シラバス

新	旧
<講義科目の場合> 授業への参加度（発問に対する応答、発言内容） <演習科目の場合> 演習への参加度（実技・グループワークへの取組、討議内容）	<講義科目の場合> 授業貢献度 <演習科目の場合> 授業貢献度

（是正事項）　看護学部　看護学科

７．多様な入学者選抜方法を採用しているが、各選抜方法においてアドミッション・ポリシーに掲げる能力等を適切に測ることができるのか不明確であることから、審査意見１への対応を踏まえ、アドミッション・ポリシーと各入学者選抜方法との整合性について明確に説明すること。

（対応）

審査意見７の説明に先立ち、他の審査意見対応による、カリキュラム・ポリシー（CP）およびアドミッション・ポリシー（AP）の修正について説明する。審査意見１(１)を踏まえ、CP「1．教育内容の（４)」の記述を以下の通り修正した。(該当部分のみ抜粋)

新	旧
（４)「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につけるために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として配置します。	（４)「看護英語コミュニケーション科目」は、「共通教育科目」を基盤とし、看護の対象となる多様な人々との交流や多様な価値観を理解し支援するため、英語でのコミュニケーションスキルを身につける科目を配置します。

また、審査意見８を踏まえ、高等学校卒業程度認定試験に合格した者を含めていることがわかるように、AP の一部を以下の通り修正する。(該当部分のみ抜粋)

新	旧
１．知識・技能 （１）高等学校等の教育課程を修了またはそれに相当する程度の学力を有するなど、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。	１．知識・技能 （１)高等学校等の教育課程を学修し、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。

審査意見１(１)および審査意見８への対応として、上記の通り CP と AP の記載を一部修正し、改めて AP と各入学者選抜方法の整合性を確認した。本学の入学者選抜は、本学の建学の精神や教育目的、教育内容を理解し、求める学生像に適した学生を公平かつ適正に受け入れるために実施する。入学者選抜方法は、学力試験のみではなく、入学志望者の意欲や適性、能力などを考慮して多面的かつ総合的に評価するため、多様な選抜方法を採

用している。本学の入学者選抜方法と AP との対応について、資料４「入学者選抜方法と入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）との対応表」として示す。資料４に示す通り、AP に対して各入学者選抜方法は整合が取れていると判断しているが、審査意見７を踏まえ、設置の趣旨への記載が不十分であったことから、設置の趣旨を以下の通り修正する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（48 ページ）

新	旧
令和４年度の入学者選抜は、一般選抜と学校推薦型選抜の２種類である。すべての入学者選抜で「調査書」を共通の出願書類とし、入学志願者の学力の３つの要素に関する評価の記載からアドミッション・ポリシーの「思考力・判断力・表現力」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。 一般選抜（一般入試（前期）（後期）・共通テスト利用入試（前期）（後期）・共通テストプラス入試）では、「調査書」に加え、「学力試験」でアドミッション・ポリシーの修学に必要な「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の基礎を身につけているかを評価する。 学校推薦型選抜（金城学院高等学校高大接続型推薦入試・指定校制推薦入試・一般公募制推薦入試［適性検査型］）では、「調査書」に加え、「学校長の推薦書」を共通の出願書類とし、アドミッション・ポリシーに示す「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価が記載された内容を求める。また、金城学院高等学校高大接続型推薦入試及び指定校制推薦入試では、「志望理由書」によりアドミッション・ポリシーの「思考力・判断力・表現力」や「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、「面接（口頭試問を含む）」によって「知識・技能」のほか、「思考力・判断力・表現力」や「主体性をもって多様な人々と	令和４年度の入学者選抜は、一般選抜、学校推薦型選抜の２種類である。一般選抜は、「学力試験」、「調査書」により選抜する。学校推薦型選抜は、「調査書」、「志願理由書」及び「面接（口頭試問を含む）」により選抜する。すべての入学者選抜で「調査書」を共通の出願書類とし、入学希望者の学力の３つの要素に関する評価の記載からアドミッション・ポリシーに関する「思考力・判断力・表現力」や「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を審査する。「学力試験」、「志望理由書」及び「面接（口頭試問を含む）」は、アドミッション・ポリシーの修学に必要な基本的な「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の基礎が身についているかを評価する。そのため、学力試験では、外国語の「英語」あるいは「国語」の文系科目から文章を適切に読み解く力や正しく明確に表現する力を測定する。また、数学及び理科の理系科目から論理的に思考する力や客観的に説明する力を測定する。これらの評価を総合し、合格者を選抜する。

協働して学ぶ態度」についても評価する。さらに一般公募制推薦入試［適性検査型］では、「適性検査（学力試験）」によって「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の基礎が身についているかを評価する。 　学力試験を課す入学者選抜では、外国語の「英語」あるいは「国語」の文系科目から文章を適切に読み解く力や正しく明確に表現する力を評価する。また、数学及び理科の理系科目から論理的に思考する力や客観的に説明する力を評価する。 　各入学者選抜方法において、これらの評価を総合し、合格者を選抜する。	

【資料６　入学者選抜方法と入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）との対応表】

（是正事項）　看護学部　看護学科

８．アドミッション・ポリシーに「高等学校等の教育課程を学修し」とあるが、高等学校卒業程度認定試験に合格した者がそれに該当するのかが判然としないため、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（対応）

当初から、アドミッション・ポリシー（AP）「１．知識・技能　（１）高等学校等の教育課程を学修し、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。」については、「高等学校卒業程度認定試験に合格した者」を含める意図であったが、審査意見８を踏まえ、「高等学校卒業程度認定試験に合格した者」を含めていることがわかるよう、AP の一部を変更する。加えて、募集要項で「高等学校卒業程度認定試験に合格した者」に入学資格があることを明示する。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（48 ページ）

新	旧
Ⅷ　入学者選抜の概要 **１．入学者受入れの方針(以下、アドミッション・ポリシーとする)** 看護学部看護学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。 アドミッション・ポリシー 看護学部看護学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の３つの要素を備えていることを期待します。 また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。 １．知識・技能 （１）高等学校等の教育課程を修了またはそれに相当する程度の学力を有するなど、	**Ⅸ　入学者選抜の概要** **１．入学者受入れの方針(以下、アドミッション・ポリシーとする)** 看護学部看護学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。 アドミッション・ポリシー 看護学部看護学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心を持ち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職を志す学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の３つの要素を備えていることを期待します。 また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。 １．知識・技能 （１）高等学校等の教育課程を学修し、修学に必要な基本的知識・技能を身につけてい

修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。 ２．思考力・判断力・表現力 （２）入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている。 ３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 （３）自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。	る。 ２．思考力・判断力・表現力 （２）入学までに学修した知識･技能を生かした思考力･判断力･表現力の基礎を身につけている。 ３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 （３）自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。

（審査意見以外の対応）　看護学部　看護学科

教員審査の結果、藏本直子（14）准教授がチーム医療論（担当形態：共同）の判定「不可」（専任補充）の判定を受けた対応について。

（対応）

チーム医療論は複数の教員が共同で行う授業であり、藏本准教授は主に、看護師、助産師の視点から多職種連携教育について授業を行う予定であった。教員審査の結果、「不可」（専任補充）との判定であったが、既に当該科目の教員審査の結果、「可」の判定を受けている阿部恵子教授も看護師、助産師の資格を有している。チーム医療における助産師の役割について、２名で指導する計画であったが、教育内容を再検討した結果、１名で担当可能と判断した。また、教員１名を減らしても専任教員４名（教授２名、講師１名、助教１名）と兼任教員４名の合計８名が担当するため、学生のグループワーク指導等も問題なく行うことができ、学生サポートの観点からも授業に支障がないことから、専任教員の補充をせずに対応する。

資料１　カリキュラム・ポリシーに基づく科目編成とディプロマ・ポリシー及び養成する人材像との関係

カリキュラム・ポリシー（CP）

（1）**「共通教育科目」**は、人間に対する畏敬の念と高い倫理性、豊かな人間性を養うため、福音主義キリスト教に基づく「金城アイデンティティ科目」、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養および多様な価値観を養う「金城展開科目」の3科目群を配置します。

（2）「専門教育科目」は、「導入科目」、「看護英語コミュニケーション科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「保健師課程科目」に区分します。

（3）**「導入科目」**は、大学での学びに円滑に移行し、大学生として必要な学修スキルを身につけるための科目と看護学を学ぶうえで豊かな人間性や高い倫理観を養うための科目を配置します。

（4）**「看護英語コミュニケーション科目」**は、「共通教育科目」を基盤とし、看護場面における英語でのコミュニケーションスキルを身につけるために、医療現場での看護実践を想定した授業による科目として配置します。

（5）**「専門基礎科目」**は、科学的根拠に基づいた看護実践の基礎となる知識を身につけるため、「人間の身体のしくみと働き」、「健康障害と治療論」、「社会保障制度と社会環境」の３科目群を配置します。

（6）「専門科目」は、科学的根拠に基づく安全・安楽な看護実践に必要な専門知識・技術・態度を身につけるため、**「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」**、**「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」**、**「看護の統合と探究」**の３科目群を配置します。
「看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群」の中に、「基礎看護学」、「地域・在宅看護学」、「グローバルヘルス看護学」の３領域を置き、看護学の基礎となる理論・専門知識と看護技術の修得、および国内外の保健医療福祉の現状を学修することで多様な社会資源、サービス、制度について理解し、多様な人々・地域を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。
「健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群」の中に、「成人看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「高齢者看護学」、「精神看護学」の５領域を置き、あらゆる成長発達段階と健康状態にある人々を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。
「看護の統合と探究」の中に、多職種との連携・協働について学修する科目、看護の質向上のための自己研鑽・探究心を養う科目を配置します。

（7）「保健師課程」は選択制とし、2年次以降に**「保健師課程科目」**として**「公衆衛生看護学」**の科目群を配置します。

注）　CPの「序文」、「2．教育方法」及び「3．評価」は省略

カリキュラム・ポリシーに基づく科目区分　#1 ／ 科目名　#2

				科目名　#2
共通教育科目	金城アイデンティティ科目			キリスト教学（1）
				キリスト教学（2）
				異文化コミュニケーション　☆
				多文化共生社会　☆
	金城コア科目			英語コミュニケーションA（1）
				英語コミュニケーションA（2）
				女性みらい
				キャリア開発A
	金城展開科目			統計科学
				情報リテラシー
				スポーツ・アンド・エクササイズ講義
				スポーツ・アンド・エクササイズA・B・C・D・E・F・G　☆
専門教育科目	導入科目			基礎ゼミナール
				生命倫理
	看護英語コミュニケーション科目			看護英語コミュニケーション（1）
				看護英語コミュニケーション（2）
				看護英語コミュニケーション（3）　※
専門基礎科目	人間の身体のしくみと働き			解剖生理学A（人体の構造）
				解剖生理学B（人体の機能）
				解剖生理学C（生殖・発達・加齢）
				生化学
	健康障害と治療論			病態生理学
				薬理学
				栄養学
				疾病・病態・治療論A（循環器・呼吸器・消化器）
				疾病・病態・治療論B（内分泌・腎・生殖器）
				疾病・病態・治療論C（血液・免疫・感染）
				疾病・病態・治療論D（精神・小児）
				疾病・病態・治療論E（運動器・神経・検査）
				臨床心理学
				カウンセリング
	社会保障制度と社会環境			疫学
				保健統計学
				健康科学概論
				社会保障論
				保健医療福祉行政論（1）
				保健医療福祉行政論（2）　※
				家族社会学　※
				公衆衛生看護学概論
専門科目	看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群	基礎看護学		看護学概論
				看護理論と看護実践への活用
				看護過程論
				家族看護論
				看護倫理
				医療リスクマネジメント論
				基礎看護生活援助技術演習
				基礎看護診療援助技術演習
				看護コミュニケーション論
				ヘルスアセスメント
				基礎看護学実習（1）
				基礎看護学実習（2）
		地域・在宅看護学		地域・在宅看護学概論
				地域包括ケア論
				地域・在宅看護援助論（1）
				地域・在宅看護援助論（2）
				地域・在宅看護学実習
				地域療養体験実習
		グローバルヘルス看護学		グローバルヘルス看護学概論
				グローバルヘルス看護援助論
	健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群	成人看護学		成人看護学概論
				急性期看護援助論
				慢性期看護援助論
				成人看護援助論
				急性期看護学実習
				慢性期看護学実習
		小児看護学		小児看護学概論
				小児看護援助論（1）
				小児看護援助論（2）
				小児看護学実習
		母性看護学		母性看護学概論
				母性看護援助論（1）
				母性看護援助論（2）
				母性看護学実習
		高齢者看護学		高齢者看護学概論
				高齢者看護援助論（1）
				高齢者看護援助論（2）
				高齢者看護学実習
		精神看護学		精神看護学概論
				精神看護援助論（1）
				精神看護援助論（2）
				精神看護学実習
	看護の統合と探求			災害看護論
				感染症と社会　※
				看護政策　※
				看護管理学
				チーム医療論
				統合実習
				看護研究方法と看護実践への活用
				原著講読　※
				卒業研究
保健師課程科目	公衆衛生看護学			公衆衛生看護支援論A（母子・成人・高齢者保健）
				公衆衛生看護支援論B（精神・障害者・難病・感染症保健）
				公衆衛生看護支援論C（学校・産業保健）
				公衆衛生看護支援論D（地域診断・健康教育・地区組織活動）
				公衆衛生看護活動展開論A（個人・家族・集団への保健指導）
				公衆衛生看護活動展開論B（地域診断・健康教育の展開）
				公衆衛生看護活動展開論C（公衆衛生看護活動の総括）
				公衆衛生看護管理論A（看護管理活動・健康危機管理）
				公衆衛生看護管理論B（地域ケアシステム）
				公衆衛生看護学実習（1）
				公衆衛生看護学実習（2）

ディプロマ・ポリシー（DP）／ DPの能力／ 人材像の要素／ 養成する人材像

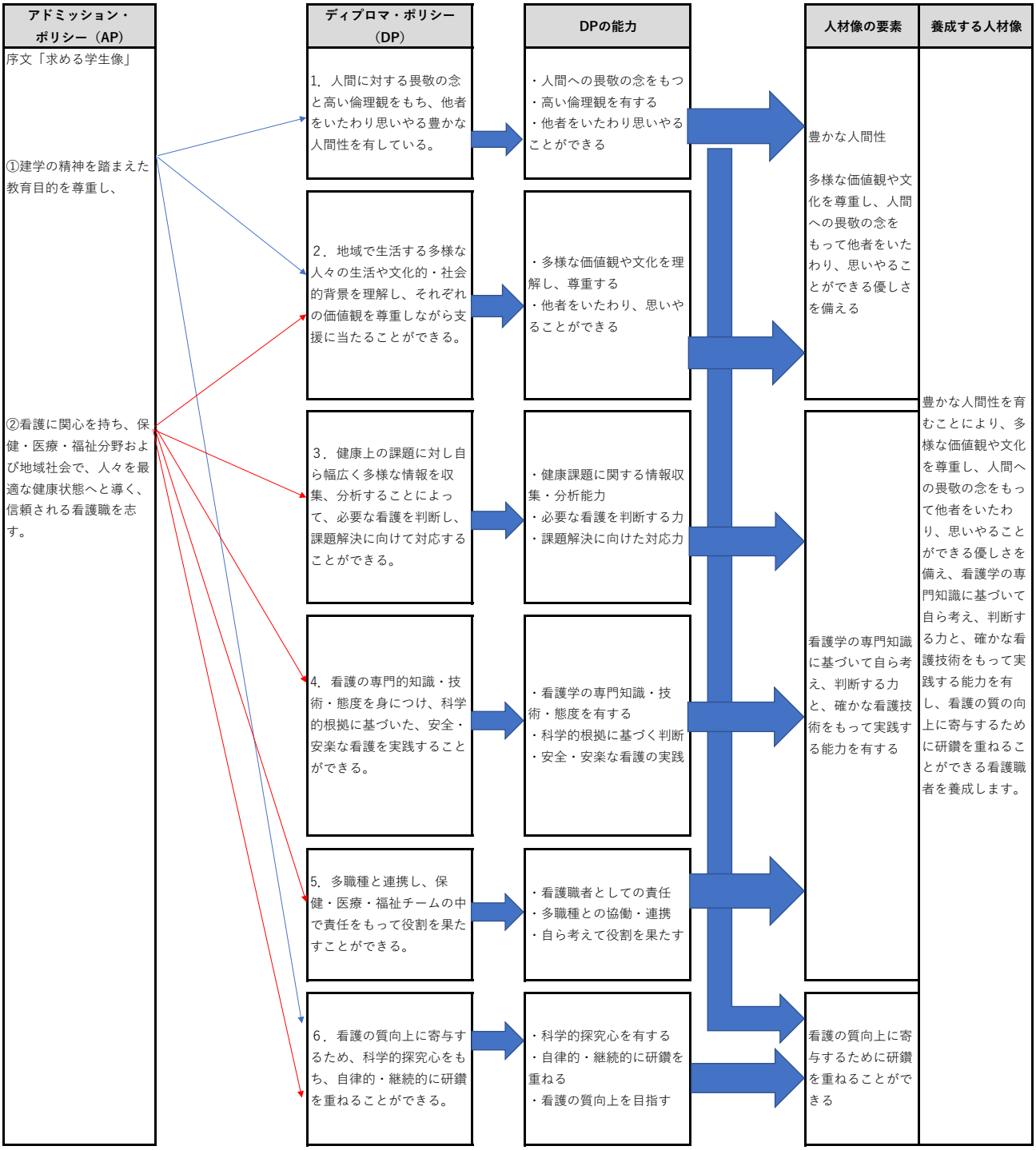
ディプロマ・ポリシー（DP）	DPの能力	人材像の要素	養成する人材像
1．人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。	・人間への畏敬の念をもつ ・高い倫理観を有する ・他者をいたわり思いやることができる	豊かな人間性、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることができる優しさを備える	豊かな人間性を育むことにより、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることができる優しさを備え、看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有し、看護の質の向上に寄与するために研鑽を重ねることができる看護職者を養成します。
2．地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。	・多様な価値観や文化を理解し、尊重する ・他者をいたわり、思いやることができる		
3．健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。	・健康課題に関する情報収集・分析能力 ・必要な看護を判断する力 ・課題解決に向けた対応力	看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を有する	
4．看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。	・看護学の専門知識・技術・態度を有する ・科学的根拠に基づく判断 ・安全・安楽な看護の実践		
5．多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。	・看護職者としての責任 ・多職種との協働・連携 ・自ら考えて役割を果たす		
6．看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。	・科学的探究心を有する ・自律的・継続的に研鑽を重ねる ・看護の質向上を目指す	看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねることができる	

#1：カリキュラム・ポリシーでの科目区分（太字）。保健師課程科目は選択制。
#2　必修科目、選択必修科目（☆）、専門教育科目に配置されている選択科目（※）を掲載している。共通教育科目に配置されている他の科目（選択）は省略。

- DP１に関連する科目
- DP２に関連する科目
- DP３に関連する科目
- DP４に関連する科目
- DP５に関連する科目
- DP６に関連する科目

#3　科目の背景色は、関係するDPの背景色と揃えて示した。
例：DP2（背景色：薄緑）に関連する科目
異文化コミュニケーション、多文化共生社会、英語コミュニケーションA（1）、英語コミュニケーションA（2）、看護英語コミュニケーション（1）、看護英語コミュニケーション（2）、看護英語コミュニケーション（3）、健康科学概論、社会保障論、保健医療福祉行政論（1）、保健医療福祉行政論（2）、家族社会学、家族看護論、地域包括ケア論、地域療養体験実習、グローバルヘルス看護学概論、グローバルヘルス看護援助論　である。

資料２　アドミッション・ポリシー（求める学生像）、ディプロマ・ポリシー及び養成する人材像の関連性



資料3　カリキュラム・ツリー(科目編成とディプロマ・ポリシーとの関連)

＃　必修科目、選択必修科目(☆)、専門教育科目に配置されている選択科目(※)を掲載、共通教育科目に配置されている科目(選択)は省略。

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
DP6　看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。	**【金城コア科目】** キャリア開発A	女性みらい			**【看護の統合と探究】** 看護研究方法論と看護実践への活用		統合実習　原著講読 卒業研究	卒業研究
DP5　多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。					**【看護の統合と探究】** 災害看護論		感染症と社会 看護管理学　チーム医療論 **【公衆衛生看護学】** 公衆衛生看護管理論A 公衆衛生看護活動展開論B	看護政策 公衆衛生看護管理論B 公衆衛生看護活動展開論C
DP4　看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。			**【健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群】** **[成人看護学]** 成人看護学概論 **[小児看護学]** 小児看護学概論 **[母性看護学]** 母性看護学概論 **[高齢者看護学]** 高齢者看護学概論 **[精神看護学]** 精神看護学概論	慢性期看護援助論 急性期看護援助論 小児看護援助論(1) 母性看護援助論(1) 高齢者看護援助論(1) 精神看護援助論(1)	成人看護援助論 小児看護援助論(2) 母性看護援助論(2) 高齢者看護援助論(2) 精神看護援助論(2)	慢性期看護学実習 急性期看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 高齢者看護学実習 精神看護学実習		
	【看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群】 **[基礎看護学]** 看護学概論 基礎看護学実習(1) 基礎看護生活援助技術演習 看護コミュニケーション論	基礎看護診療援助技術演習 **[地域・住宅看護学]** 地域・在宅看護学概論	ヘルスアセスメント 地域・在宅看護援助論(1)	医療リスクマネジメント論 基礎看護学実習(2) **[公衆衛生看護学]** 公衆衛生看護活動展開論A 公衆衛生看護支援論A・B	地域・在宅看護援助論(2)	地域・在宅看護学実習 公衆衛生看護支援論C・D		公衆衛生看護学実習(1) 公衆衛生看護学実習(2)
			【社会保障制度と社会環境】 公衆衛生看護学概論					
DP3　健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。	**【人間の身体のしくみと働き】** 解剖生理学A・B	解剖生理学C　生化学						
	【金城展開科目】 統計科学 情報リテラシー	**【健康障害と治療論】** 栄養学 病態生理学	カウンセリング 疾病・病態・治療論A～C 臨床心理学	疾病・病態・治療論D・E 薬理学				
	【導入科目】 基礎ゼミナール	**【社会保障制度と社会環境】** 保健統計学			疫学			
	【看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群】 **[基礎看護学]** 看護理論と看護実践への活用			看護過程論				
DP2　地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。	**【金城コア科目】** 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝA(1)	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝA(2)	**【看護英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】** 看護英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(1)		看護英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(2)		看護英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(3)	
	【金城アイデンティティ科目】 多文化共生社会	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ						
	【社会保障制度と社会環境】 家族社会学	健康科学概論		社会保障論	保健医療福祉行政論(1)		保健医療福祉行政論(2)	
		【看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群】 **[地域・在宅看護学]** 地域包括ケア論 地域療養体験実習 **[基礎看護学]**　家族看護論	**[グローバルヘルス看護学]** グローバルヘルス看護学概論		グローバルヘルス看護援助論			
DP1　人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。	**【金城アイデンティティ科目】** キリスト教学(1)	キリスト教学(2)						
	【金城展開科目】　※S&E A～F		※S&E G	※S&E講義	※スポーツ・アンド・エクササイズはS&Eと表示			
	【導入科目】 生命倫理	**【看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群】** **[基礎看護学]**　看護倫理						

資料４　カリキュラム・マップ

学年	ディプロマ・ポリシー／科目	(1)人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。	(2)地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。	(3)健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。	(4)看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。	(5)多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。	(6)看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。
4年次	公衆衛生看護学実習（２）▲		○		◎	○	
	公衆衛生看護学実習（１）▲		○		◎	○	
	公衆衛生看護管理論Ｂ▲		○		○	◎	
	公衆衛生看護管理論Ａ▲		○		○	◎	
	公衆衛生看護活動展開論Ｃ▲		○		○	◎	
	公衆衛生看護活動展開論Ｂ▲		○		○	◎	
	卒業研究						◎
	原著講読▲			○			◎
	統合実習					○	◎
	チーム医療論					◎	
	看護管理学					◎	○
	看護政策▲					◎	
	感染症と社会▲		○			◎	
	保健医療福祉行政論（２）▲		◎				
	看護英語コミュニケーション（３）▲		◎		○		
3年次	公衆衛生看護支援論Ｄ▲		○		◎	○	
	公衆衛生看護支援論Ｃ▲		○		◎	○	
	看護研究方法と看護実践への活用						◎
	災害看護論				○	◎	
	精神看護学実習		○		◎	○	
	精神看護援助論（２）		○		◎	○	
	高齢者看護学実習		○		◎	○	
	高齢者看護援助論（２）		○		◎	○	
	母性看護学実習		○		◎	○	
	母性看護援助論（２）		○		◎	○	
	小児看護学実習		○		◎	○	
	小児看護援助論（２）		○		◎	○	
	慢性期看護学実習		○		◎	○	
	急性期看護学実習		○		◎	○	
	成人看護援助論		○		◎	○	
	グローバルヘルス看護援助論		◎		○		
	地域・在宅看護学実習		○		◎	○	
	地域・在宅看護援助論（２）		○		◎	○	
	保健医療福祉行政論（１）		◎				
	疫学			◎			
	看護英語コミュニケーション（２）		◎		○		

学年	ディプロマ・ポリシー／科目	(1)人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。	(2)地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。	(3)健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。	(4)看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。	(5)多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。	(6)看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。
2年次	公衆衛生看護活動展開論Ａ▲		○		◎		
	公衆衛生看護支援論Ｂ▲		○		◎	○	
	公衆衛生看護支援論Ａ▲		○		◎	○	
	精神看護援助論（１）		○		◎	○	
	精神看護学概論		○		◎		
	高齢者看護援助論（１）		○		◎	○	
	高齢者看護学概論		○		◎		
	母性看護援助論（１）		○		◎	○	
	母性看護学概論		○		◎		
	小児看護援助論（１）		○		◎	○	
	小児看護学概論		○		◎		
	慢性期看護援助論		○		◎	○	
	急性期看護援助論		○		◎	○	
	成人看護学概論		○		◎		
	グローバルヘルス看護学概論		◎		○		
	地域・在宅看護援助論（１）		○		◎	○	
	基礎看護学実習（２）		○		◎		
	ヘルスアセスメント			○	◎		
	医療リスクマネジメント論				◎		
	看護過程論			◎	○		
	社会保障論		◎				
	公衆衛生看護学概論		○		◎		
	カウンセリング			◎			
	臨床心理学			◎			
	疾病・病態・治療論Ｅ			◎			
	疾病・病態・治療論Ｄ			◎			
	疾病・病態・治療論Ｃ			◎			
	疾病・病態・治療論Ｂ			◎			
	疾病・病態・治療論Ａ			◎			
	薬理学			◎			
	看護英語コミュニケーション（１）		◎		○		
	スポーツ・アンド・エクササイズ Ｇ▲	◎					
	スポーツ・アンド・エクササイズ講義	◎					

学年	ディプロマ・ポリシー／科目	(1)人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。	(2)地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。	(3)健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。	(4)看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。	(5)多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。	(6)看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。
1年次	地域療養体験実習		◎		○		
	地域包括ケア論		◎		○		
	地域・在宅看護学概論		○		◎		
	基礎看護学実習（1）				◎		
	看護コミュニケーション論				◎		
	基礎看護診療援助技術演習				◎		
	基礎看護生活援助技術演習				◎		
	看護倫理	◎	○				
	家族看護論		◎				
	看護理論と看護実践への活用			◎			
	看護学概論		○		◎		
	家族社会学▲		◎				
	保健統計学			◎			
	健康科学概論		◎				
	栄養学			◎			
	病態生理学			◎			
	生化学			◎			
	解剖生理学C			◎			
	解剖生理学B			◎			
	解剖生理学A			◎			
	生命倫理	◎	○				
	基礎ゼミナール			◎			
	スポーツ・アンド・エクササイズA，B，C，D，E，F▲	◎					
	異文化コミュニケーション▲		◎				
	多文化共生社会▲		◎				
	情報リテラシー			◎			
	統計科学			◎			
	キャリア開発A						◎
	女性みらい						◎
	英語コミュニケーションA（2）		◎				
	英語コミュニケーションA（1）		◎				
	キリスト教学（2）	◎					
	キリスト教学（1）	◎					

◎：ディプロマ・ポリシーに示された内容の達成に向けて学修成果が高い科目

○：ディプロマ・ポリシーに示された内容の達成に向けて学修成果がある科目

必修科目、選択科目（▲）を掲載、共通教育科目に配置されている他の科目（選択）は省略。

資料５　金城学院大学看護学部看護学科　時間割表

1限	9：10～10：40
2限	10：55～12：25
3限	13：20～14：50
4限	15：05～16：35
5限	16：45～18：15
6限	18：25～19：55

金城学院大学看護学部　時間割表

■１年次

前期	月	火	水	木	金
1	解剖生理学B W5-401	基礎ゼミナール W5-101～103、W5-107～110、112、W5-216～218	共通教育	英語コミュニケーションA(１) N1-401~404	キャリア開発A E1-206
2	情報リテラシー W1-B101	看護学概論 W5-401	共通教育 多文化共生社会 N1-606	解剖生理学A W5-401	看護理論と看護実践への活用 W5-401
3	統計科学 N1-611	家族社会学 N2-215	キリスト教学(1) N2-111	生命倫理 W5-401	基礎看護生活援助技術演習 W5-301, W5-401
4	看護コミュニケーション論 W5-401	スポーツ・アンド・エクササイズ A,C,D 体育館	スポーツ・アンド・エクササイズ B,E 体育館	スポーツ・アンド・エクササイズ F 体育館	

集中講義：「基礎看護学実習（１）」 ８月

■１年次

後期	月	火	水	木	金
1	共通教育	病態生理学 W5-401	共通教育	英語コミュニケーションA(2) N1-401~404	
2	共通教育	生化学 W5-401	共通教育 異文化コミュニケーション N1-606	解剖生理学C W5-401	看護倫理 W5-401 / 家族看護論 W5-401
3	基礎看護診療援助技術演習 W5-301, W5-401	地域・在宅看護学概論 W5-401		健康科学概論 W5-401 / 栄養学 W5-401	地域包括ケア論 W5-401 / 女性みらい N2-212
4		キリスト教学(2) N2-111		保健統計学 W5-401	

集中講義：「地域療養体験実習」 ２月

■２年次

前期	月	火	水	木	金
1	共通教育		看護英語コミュニケーション（１） W5-402	疾病・病態・治療論C W5-402	グローバルヘルス看護概論 W5-402
2	成人看護学概論 W5-402	疾病・病態・治療論B W5-402	共通教育 スポーツ・アンド・エクササイズG 体育館	公衆衛生看護学概論 W5-402	臨床心理学 W5-402 / カウンセリング W5-402
3	精神看護学概論 W5-402	ヘルスアセスメント W5-301, W5-402		地域・在宅看護援助論（１） W5-402,W5-314, W5-316,W5-305	母性看護学概論 W5-402
4	疾病・病態・治療論A W5-402			高齢者看護学概論 W5-402	小児看護学概論 W5-402

■２年次

後期	月	火	水	木	金
1	社会保障論 W5-402	医療リスクマネジメント論 W5-402	共通教育	高齢者看護援助論（１）※1 W5-402,W5-314, W5-316,W5-305	
2	疾病・病態・治療論D W5-402	小児看護援助論（１）※1 W5-402、W5-308, W5-309	薬理学 W5-402	母性看護援助論（１）※1 W5-402, W5-308, W5-309	看護過程論 W5-402
3	公衆衛生看護支援論A W5-105,W5-106, W5-113、W5-314	慢性期看護援助論 W5-402, W5-316, W5-314, W5-307, W5-306, W5-305		疾病・病態・治療論E W5-402	精神看護援助論（１）※1 W5-402,W5-314, W5-313,W5-305
4	公衆衛生看護支援論B W5-105,W5-106, W5-113,W5-314	急性期看護援助論 W5-402, W5-316, W5-314, W5-307, W5-306, W5-305		公衆衛生看護活動展開論A ※1 W5-105,W5-106, W5-113,W5-314	スポーツ・アンド・エクササイズ講義 N1-611

集中講義：「基礎看護学実習（２）」２月

※１ 実習科目のスケジュールに応じて、時間割を一部調整する。

■３年次

前期	月	火		水	木	金	
1				保健医療福祉行政論（１） W5-214			
2	地域･在宅看護援助論(2) W5-214, W5-314, W5-316,W5-305	災害看護論 W5-214		看護英語コミュニケーション（２） N1-401,N1-404, N1-408,N1-409, N1-604	看護研究方法と看護実践への活用 W5-214	精神看護援助論（２）※1 W5-214,W5-314, W5-313,W5-305	
3	グローバルヘルス看護援助論 ※1 ※2 W5-214	母性看護援助論（２）※1 W5-214、W5-308、W5-309			小児看護援助論(2) ※1 W5-214, W5-308, W5-309	公衆衛生看護支援論D W5-105,W5-106, W5-113,W5-314	
4	疫学 W5-214	高齢者看護援助論（２）※1 W5-214、W5-314、W5-316、W5-305			成人看護援助論※1 W5-214,W5-316, W5-314, W5-307, W5-306, W5-305	公衆衛生看護支援論C W5-105, W5-106, W5-113 W5-314	

※１ 実習科目のスケジュールに応じて、時間割を一部調整する。
※2 一部 学外にて演習を実施する。

■３年次

後期	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					

臨地実習
- 小児看護学実習
- 母性看護学実習
- 精神看護学実習
- 急性期看護学実習
- 慢性期看護学実習
- 高齢者看護学実習
- 地域・在宅看護学実習

■４年次

前期	月		火		水	木		金	
1	公衆衛生看護活動展開論B W5-105, W5-106, W5-113								
2			チーム医療論 W5-213		卒業研究 各教員研究室	感染症と社会 W5-213		看護英語コミュニケーション（３） W5-213	
3	公衆衛生看護管理論A W5-105, W5-106, W5-113, W5-314		看護管理学 W5-213			原著講読 W5-213		保健医療福祉行政論（２） W5-213	
4									

集中講義：統合実習 6月

■４年次

後期	月	火		水	木	金	
1							
2		看護政策 W5-213		卒業研究 各教員研究室		公衆衛生看護管理論B ※1 W5-113, W5-314	
3						公衆衛生看護活動展開論C ※1 W5-105, W5-106, W5-113	
4							

集中講義：公衆衛生看護学実習（１）9～10月
公衆衛生看護学実習（２）9～10月
※１ 実習科目のスケジュールに応じて、時間割を一部調整する。

資料６　入学者選抜方法と入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）との対応表

○:入学者選抜において重視する

入試種別			選考方法	AP1 知識・技能 (1)高等学校等の教育課程を修了またはそれに相当する程度の学力を有するなど、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている。	AP2 思考力・判断力・表現力 (2)入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている。	AP3 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 (3)自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために貢献するという目的意識をもっている。
学校推薦型選抜	金城学院高校高大接続型推薦入試		推薦書	○	○	○
			調査書		○	○
			志望理由書		○	○
			面接（口頭試問を含む）	○	○	○
	指定校制推薦入試		推薦書	○	○	○
			調査書		○	○
			志望理由書		○	○
			面接（口頭試問を含む）	○	○	○
	一般公募制推薦入試［適性検査型］		推薦書	○	○	○
			調査書	○	○	○
			適性検査（学力試験）	○	○	
一般選抜	一般入試（前期）	2科目型	調査書		○	○
			学力試験	○	○	
		3科目型	調査書		○	○
			学力試験	○	○	
		複数日評価型	調査書		○	○
			学力試験	○	○	
		英語外部試験利用型	調査書		○	○
			英語外部試験	○	○	
			学力試験（英語外部試験含む）	○	○	
	一般入試（後期）		調査書		○	○
			学力試験	○	○	
	共通テスト利用入試（前期）		調査書		○	○
			大学入学共通テスト	○	○	
	共通テストプラス方式入試		調査書		○	○
			大学入学共通テスト	○	○	
			学力試験	○	○	
	共通テスト利用入試（後期）		調査書		○	○
			大学入学共通テスト	○	○	

出願書類の「調査書」及び「学校長の推薦書」については、入学者選抜実施要項に基づき、求める学生像及び 学力の3つの要素 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価が記載された内容を求める。また、調査書は全ての入試において出願書類とし、調査書に記載された学力の3つの要素を本学のアドミッション・ポリシーと照らし合わせて評価する。